

“日本初”の音声読み上げ翻訳機登場!

目の不自由な人々の、印刷物を読むことの不自由を解決する音声読書器「よむべえ」シリーズに、このほど翻訳機能が追加された。他社の音声読書器にも翻訳機能の例はなく、日本初の翻訳機能付き音声読み上げ読書器となった。

株式会社アメディア

コミュニケーション

バリアフリー

ライフスタイル

外国

情報社会

福祉

視覚障害者

● 2023年07月11日 12時04分



株式会社アメディア(東京都練馬区、望月優社長)は、今年6月、従来から販売してきたスキャナー搭載の音声読書器「よむべえスマイル」とカメラ搭載の音声読書器「快速よむべえ」(3機種)に翻訳機能を搭載。7月22日19時30分から、ズームとユーチューブで説明会を実施する。

◇従来の機能

よむべえスマイルと快速よむべえは、印刷物をスキャナーまたはカメラで読み取って滑らかな音声で読み上げる音声読書器。

スキャナーで読み取るよむべえスマイルは「よむべえ」の名称で2003年から、カメラで読み取る快速よむべえは2017年から視覚障害者の読む不自由を解決する機器として愛用されてきており、通算出荷台数1万台を超えている。

2021年に Google Cloud Platform を利用したクラウド認識機能を搭載し、読み上げ精度が大幅に向上した。

◇翻訳機能

翻訳できる文字は、日本語、英語、中国語簡体字、中国語繁体字、ハングルの5種類。

これら5種類の文字のいずれかで書かれた手書きや印刷物を、機器に搭載されたカメラやスキャナーで読み取って、ネイティブのような流ちょうな音声で読み上げる。

日本語から英語・英語から日本語、日本語から中国語・中国語から日本語、日本語から韓国語・韓国語から日本語の相互翻訳ができるほか、日本語以外の言語同士の相互の翻訳も可能。

「英語や中国語、韓国語で書かれた本があたかも日本語で書かれているように読めるので、自分の世界が一気に広がった」と語る望月社長。

アメディアの読書器は手書きの文字認識にも非常に強く、翻訳機能においても変わらないクオリティで手書きされた用紙をいずれかの言語に翻訳できるため、

より充実したコミュニケーションツールとしても期待される。

今後、図書館や大学、日本語学校等への積極的な導入が望まれる。

翻訳機能を利用するためには、「クラウドサービスカウント」の購入が必要だが、現在、新規購入者に2000カウント(翻訳1000ページ分)をプレゼントしている。



◇オンライン説明会

開催日時：2023年7月22日土曜日 19時30分から21時

メイン会場のZoomで行われる参加者との情報交換の時間を含む。

YouTubeでのライブ配信とアーカイブはアメディアからの説明部分のみです。

Zoomでは、それ以外に参加者と直接情報交換する時間を取っています。

開催場所：Zoom／YouTubeライブ配信

参加方法：アメディアサイト“イベントページ”から

<http://www.amedia.co.jp/event/index.html>

◇もう一つの見どころ

このオンライン説明会は、全盲の視覚障害者がズームホスト、ユーチューブ配信、機器のデモンストレーションそして会を進行するトークをすべて一人で担当する。

ズームで参加すれば、参加者との情報交換会の時間があるため、どんな風にこなしているのかを取材することができる。

◇翻訳機能搭載製品

- ・よむべえスマイル
- ・快速よむべえ 拡大モデル／読み上げモデル／一体モデル

◇取材について

上記製品又は弊社への取材をお待ちしています。

代表取締役がインタビューにお答えします。

◇株式会社アメディア

1989年の設立依頼、視覚障害者の自立を支援することにテクノロジーで挑戦。

創業者、代表取締役 望月優は

視覚障害当事者の立場から、特に音声で印刷物を読み上げる製品「よむべえシリーズ」の開発に注力。

2016年より視覚障害者の外出インフラの向上を目的に、ナビアプリ開発に着手、

2019年には、現在のナビレク・バリアフリーマップの仕組みを確立させ、視覚障害者のみならず

見える人にとっても使いやすいバリアフリーマップとして、誰もが住みよい街づくりへの貢献を目指す。

株式会社アメディア

<https://www.amedia.co.jp/>

◇音声読書機の歴史

1978年:カーツワイル・ピアノで知られるレイモンド・カーツワイル博士が、英語音声読書器を開発。

1981年にニューヨーク・ヘムステッドの公共図書館で、望月優がこの読書器の使い方トレーニングを受ける。

1983年:上記音声読書器がバージョンアップされ、カーツワイル・パーソナルリーダーとなり、音声が非常に聞き取りやすくなる。

1983年:当時の通産省工業技術院が5億円の開発費を投じ、日本電気とアンリツが日本語音声読書機の開発に着手。

1988年の試作機発表会に望月優が参加。販売するとしたら1500万円ぐらいということだったが、世の中に出回ることはなかった。

1990年代初期:拓殖大学と横浜市立盲学校の共同研究開発による日本語音声読書器「達訓」が搭乗。380万円という価格で市場に投入された。

1993年:オーストラリアのロボトロン社が日本語音声読書機「エスプリ」を開発。サカタインクスが日本の輸入代理店となり、視覚障害者にはアメディアが160万円で発売。

1996年:アメディアがパソコン用音声読書ソフト「ヨメール」を開発。198,000円で発売。

以降、アメディアの開発

2003年:音声読書器「よむべえ」 198,000円

2008年:通帳読み上げキット

2013年:手書き認識を搭載したよむべえスマイル

2017年:カメラで読み取る快速よむべえ

2021年:インターネットに接続するクラウド認識機能搭載

2023年:翻訳機能搭載

なお、この間、OCR 技術が飛躍的な進歩をし、スマートフォンでも読み上げができるアプリも出ている。

アメディアでは、視覚障害者が正しくカメラを対象物に向かって構えることが難しいことから、印刷物を置く位置とカメラの位置関係が正しくセットできる据え置き型カメラを利用した製品開発に注力している。